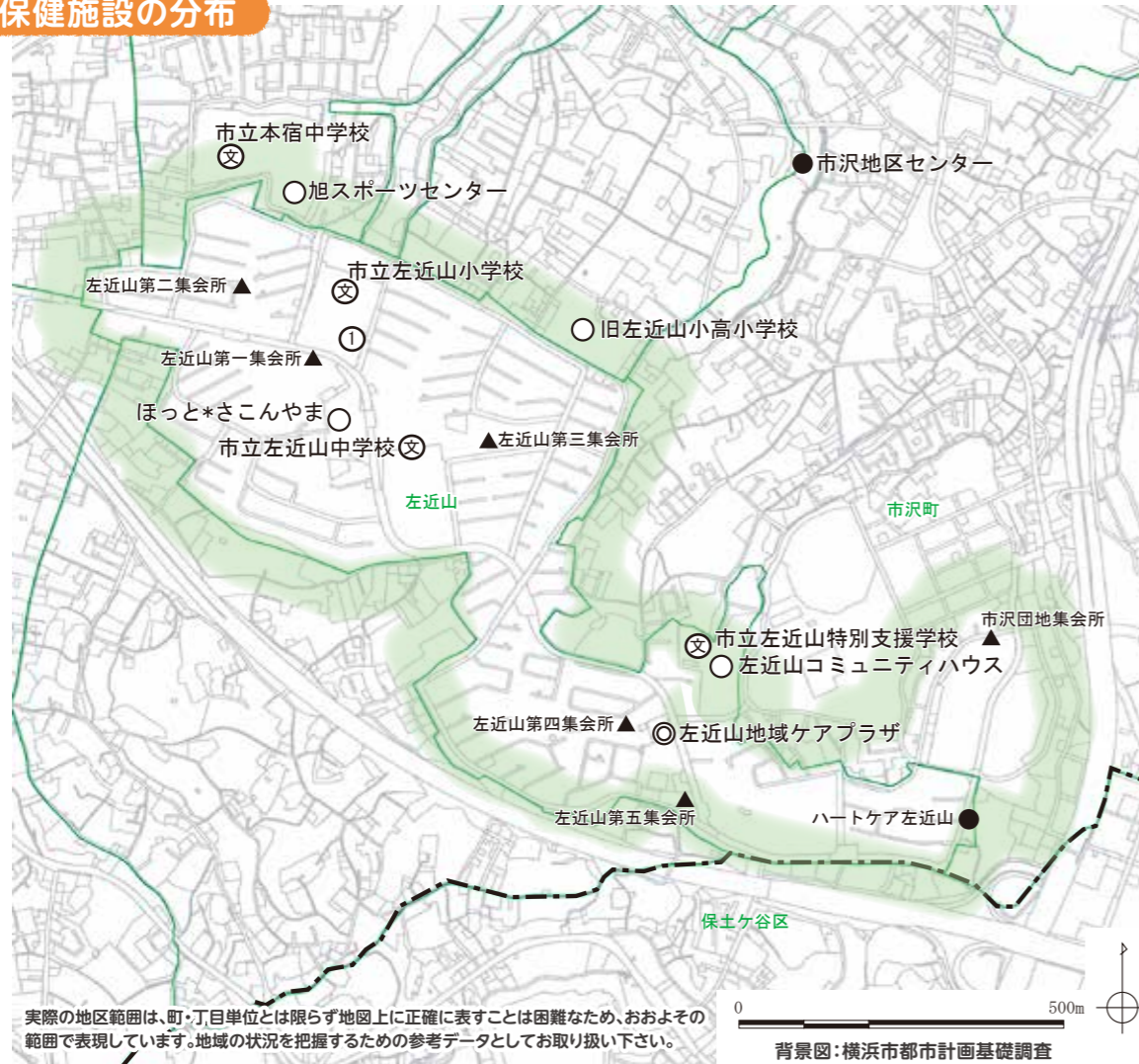


第3期の振り返り

- 左近山公園マップを作成
小学校3校統合後、生活圏が広がった子どもや保護者が遊び場を知るアイテムとなる。「団地祭」のクイズコーナーや「左近山スタンプラリー」でも活用。
- 主催イベントの開催が交流の場に
施設の利用者が参加する事で、障がい児・者の理解に繋がった。春休みに合わせイベントを開催し子どもたちの参加が定着したり、老人会やジュニアボランティアが協力することで、楽しく多世代交流ができた。
- 地域交流サロンの活用で地域力アップ
「ほっと*さこんやま」で日曜ほっとや認知症サポーター養成講座、各種教室等を開催。地域の方の居場所となり繋がりができた。
- 地域住民が中心となり行う取組みが増える
新たなボランティアが生まれ、今後のボランティアの入口としても期待される。
- 啓発や課題共有が今後の取組みに繋がる
支えあいネットワークでの話し合いを通じて、地域の中に見守りの意識が芽生えつつあり、今後の取組みへのきっかけになっている。

地域福祉保健施設の分布



- 施設リスト
- 子ども施設
- ◆認可保育所
 - ①横浜市立左近山保育園

第4期
きらっとあさひプラン

左近山 地区

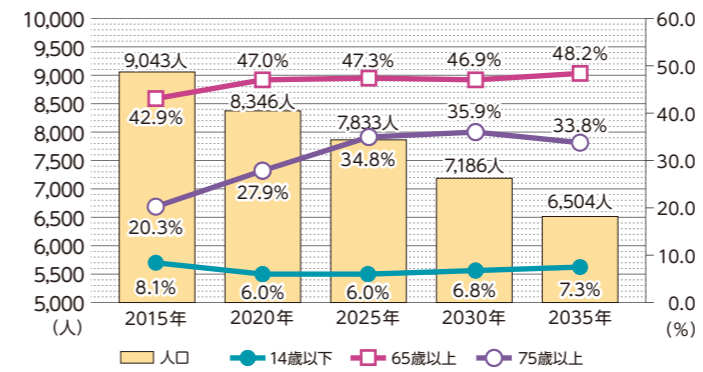


左近山地区は、旭区の南東に位置し、昭和40年代に丘陵部分に開発された集合住宅を中心とした地域です。開発当初に入居した方々や高齢になってから移り住む方もおり、区内でも高い高齢化率となっていますが、元気な高齢者も多い地区です。豊かな自然や公園がたくさんあることも魅力の一つで、身近なところに商店街やスーパー、病院があるなど生活環境も整っています。

DATA

将来人口推計

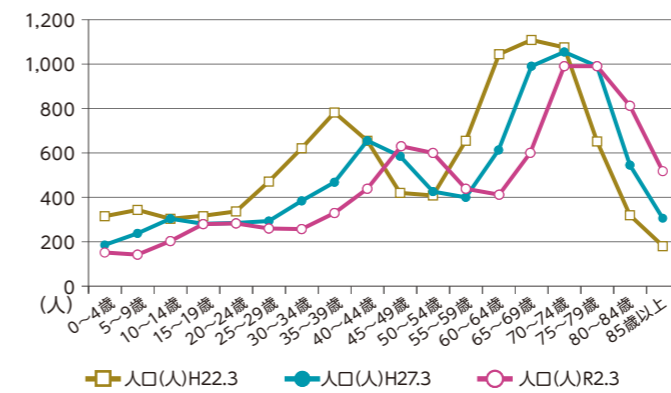
出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁目別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)



将来人口推計は、今後も減少が推測され、65歳以上の比率は2020年には45%を超えています。14歳以下の比率は、2020年以降はほぼ横ばいに推移すると推測されます。

年齢5歳別人口の動向

出典：横浜市統計ポータルサイト(各年3月末現在)



平成22年には65～69歳であった5歳別人口数のピークは、令和2年には75～79歳となっています。また、平成22年・27年に比べて年少人口は減少、75歳以上の5歳別人口は増加しています。

65歳以上の高齢者の割合は、平成27年には42.9%でしたが、令和2年には47.0%となりました。区平均の29.2%を大きく上回り、高齢化が進んでいることが分かります。

人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	H22	H27	R2	H22～R2 増減数	H27 構成比(%)	R2 構成比(%)	R2 区平均 構成比(%)
総人口(人)	10,009	9,043	8,346	▲1,663	100.0	100.0	100.0
0～14歳(人)	963	731	500	▲463	8.1	6.0	11.6
(内0～6歳)(人)	458	287	203	▲255	3.2	2.4	4.9
15～64歳(人)	5,708	4,429	3,922	▲1,786	49.0	47.0	59.2
65歳以上(人)	3,338	3,883	3,924	586	42.9	47.0	29.2
(内65～74歳)(人)	2,183	2,048	1,598	▲585	22.6	19.1	13.2
(内75歳以上)(人)	1,155	1,835	2,326	1,171	20.3	27.9	16.0
総世帯数(世帯)	4,799	4,656	4,676	▲123	-	-	-
平均世帯規模(人/世帯)	2.09	1.94	1.78	▲0.30	-	-	2.13

出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁目別世帯」、「町丁目別年齢別男女別人口」(各年3月末現在)

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。

私たちが描く地区の未来図

『活気ある左近山を未来につなごう』

左近山連合自治会 結成50周年記念スローガン
(左近山小学校 平成30年度6年1組 作成)

目標と主な取組

目標 A 大人になって戻りたいと思うふるさとづくり

地域で子どもを育てよう

- ① 居場所や集いの場を通じ、子どもと様々な世代の方が関わる場面を増やす
- ② 子どもたちが自ら考え地域で活躍できる環境づくり



▲左近山スタンプラリー
支えあいネットワーク主催の楽しい地域交流イベント! 左近山をぐるっと一周*



◀ジュニアボランティア 第二ほのぼの会との交流
左近山小学校5・6年生の有志が高齢者お食事会でボランティアをしました



日曜ほっと▶
大人も子ども一緒にボードゲームや外遊び! 子どもたちもほっとするもうひとつの居場所です

目標 B 一人ひとりを理解し寄り添えるまち

一緒に過ごす時間から互いの理解を深めよう

- ① 誰も(孤立しがちな方、認知症、障がい児者、子育て世帯等)がホッとできるような居場所、関係づくり
- ② 誰もが参加でき、互いを理解し合えるような機会づくり
- ③ 障がいがあっても、地域で活躍できる得意を活かせる場面づくり
- ④ 災害時を見据え、障がいや認知症等の理解啓発を進め、支え合える仕組みづくり



▲左近山ウォーキング
支えあいネットワーク主催イベント 地域の方、施設の利用者と一緒に交流しながら健康づくり♪



▲認知症サポーター養成講座
地域の方の認知症への理解を深める機会として、ほっと*さこんやまで年一回開催しています



▲左近山特別支援学校
社会科の授業「地域の施設を知ろう」で郵便ポストに投函! 地域と繋がる活動や交流が広がります

目標 C 地域住民自らが見守りの意識を持つまち

となり近所で気にかけておもう

- ① 地域住民に日常生活の中で見守りの意識を持ってもらう
- ② 近所付き合いの少ない人と繋がるきっかけづくり
- ③ 見守りに関する、様々な団体間の情報共有



▲ほっと*さこんやま
NPO 法人オールさこんやまが運営のほっとする憩いの場です 地域の方を温かく見守ります♪

左近山おでかけワゴン▶
左近山に住む方の移動や交流・見守りなども行う、ユティリティーボランティア



目標 D 地域活動に楽しく参加しやすいまち

自分のペースで参加してみよう

- ① できる範囲で気軽に参加できるきっかけづくり
- ② 地域を好きになってもらうための情報発信の強化
- ③ 活動団体間で工夫や困りごとを共有する
- ④ 自治会活動の目的・内容のPRによる加入促進



▲横浜国大生による地域活動
左近山団地に入居する横浜国立大学の学生が地域の中で行う様々な活動で、若い力を発揮しています!



◀商店街イベント
毎月開催している商店街イベントを多世代の活躍で盛り上げています!

地域での推進の要は「支えあいネットワーク会議」



各分野の代表が一堂に会し、意見交換や情報共有を行うことで、地域課題の抽出・共有ができ、課題解決に向けた地区別計画の推進に繋がっています。

核になるのは「運営委員会」



ネットワークメンバーより選出された運営委員を中心に、地区別計画の推進に向けた「支えあいネットワーク」の運営・企画を行っています。

共有のキギは「左近山支えあい運営通信」

「運営通信」を発行し、運営委員会での検討や決定事項、イベントに向けての準備や開催の状況など、ネットワークメンバーへ随時情報共有を行っています。



推進体制

左近山地区地域支えあいネットワーク… 左近山連合自治会、1街区自治会、2街区自治会、小高団地自治会、あさひ自治会、7・8・9街区自治会、市沢団地自治会、市沢団地住宅地区自治会、*左近山地区社会福祉協議会、*左近山老人クラブ連合会、*民生委員・児童委員協議会、*保健活動推進員、*青少年指導員、左近山団地管理組合協議会、左近山小学校、左近山中学校、左近山特別支援学校、PTA、左近山保育園、*学校・地域コーディネーター、左近山第二ほのぼの会、左近山中央診療所、日向台病院、左近山商店連合会・空とぶくじら社、ハートケア左近山、横浜市スポーツ協会、UR都市機構 (*は運営委員)